

爲シ第九ハ前後ニ振動シ且ツ廻轉ス最後ノモノハ圓筒ニ取リツケタル鉛版ニ接シ之ニインクヲ與フ、上部下部共ニ以上ノ装置有リテ鉛版ニインクヲ與フ。原動力ハ瓦斯蒸氣電氣何レニテモ差支ナシト雖モ原動力据付ノ位置ハ安全ノ場所ヲ撰ブヲ要ス多クハ地中ニ据付ケタリ又原動力ハ土地ノ狀況ニ依リ最モ費用ノ廉價ナルモノヲ撰定スルナリ。

論 說

人事の物理的觀察

機械工學及び材料強弱論 (Strength of material) といふことがある、つまり固体材料の Specimen を取て其の弾性を調ぶれば宜しい。吾々は之を人の性質に比較して面白い訓戒を得るそれは如何な事かといふと先づ第一に吾々は單に堅いばかりでは不可ない凡べての方面に弾性を有たねばならぬ、外から來る Impulsive force に對して凹んでも復元に還る性質がなければならぬ。近い例はゴム毬である、理想は完全な弾性体といふことである。フックリとした圓滿な性質即ちフックの法則の適用せらるゝ範圍を廣めるのである。

今茲に Impulse といふ語が出て來ましたが物理でいふ



Impulse は撃力衝動又は衝擊とでも譯したら好いことでも不意に襲い來る誘惑のやうなもので短かい時間に非常に強力が働くといふ場合に申します。心理などで御聴きになつた Impulse と全く同じ事でありませう。強くても脆いもの即ち弾性の範圍が狭いものは碎け易い。修養訓練といふことは金屬を Anneal して弾性を増すと全く Analogous のことであつて瓦となつて残るよりは寶石となつて碎けてしまふが潔いかもしれぬが寶石となつて残つたら尙好からう。

つまり外から襲ひ來る大なる力に對して凹んでも直ちに跳ね返る性質—弾性が必要である。然し俗語でいふやうな内の妹は踏ね返りのオキヤンで困るといふやうな意味ではありません。

瓦斯や水道の鐵管は出來上ると「ハンマー」で、カンカン叩いてみると弱い點はポツリ孔があくので檢定に不合格となる。

古語に「山を築くこと九仞の功一簣にかく」とかありまします。つまりもう一簣で十分山が出來上るのに一簣丈け運ばなかつた爲に今迄の螢雪の苦勞が無駄になつたといふやうな實例は何處にもあるものです。今一息の辛棒がし切れなくて一生を誤るといふやうな事は實に惜い事はないかと思ふ。

音響學に Tyndall の Sensitive flame といふものがある。高壓の gas が細孔より噴出して點火せられたる白熱の長い燭であつて一實に微細な高調の音波に遇ふて忽ち燭の長さや形が變化してしまふ。Delicate な Sentimental な若い女性の心理は實によくこの Sensitive flame で代表されると思ふ。

此の如き立脚地から見ると Exact Science で頭を練ることは平素の用意によつては人の弱點を矯めて忍耐の氣質を増すに與つて力あるものと信ずる。つまり彈性が増して強くなる脆くなくなる。Logical Training が習慣になると飛んだり跳ねたりの Discontinuous な論法をやらなくなる。つまり Reasonable になるのである。

色 の 配 合

赤や黄は恐らく幼稚の色なるべし。その證據には人の幼きをば赤坊と名つけ、赤ちやんといひ、赤い襦袢や黄の着物を着せて怪むことなく、又似合ふも可笑し。野蠻人は赤い物が好きなるが故に某外國のマツチ商人はその箱を赤く染めて販賣したるが爲めに巨利を博したりといふ。我等も亦マツチの箱の赤きを見て怪むことなし。その聯想も亦可ならずや何となれば金石も之を熱すれば赤くなる。赤は必ず熱に伴なう色なり。熱の初めは赤く次に變じて橙色より黄に移り青味を帯びて遂に Arc

燈の如きは紫の火を飛ばす之を白熱の状態といふ。

試みに其の「スペクトル」を檢査するに白光は凡ての色を含みて餘す所なし。

物理の傳ふる所によるに赤より紫に至るに従て光は次第にその波長を減じて細かくなり同時に振動數を増す而もその傳はる速さは「イーター」の中に於ては同一なりとかや。

人の肉体及び精神の發達も亦然り、若い者は何事にも熱し易く老人は心冷かなり、赤き心赤き燭は凡て Energie の表示にして以白眼對之などいへば冷淡といふことを表はすにあらずや。その他紅顔の美少といへば若く美しいのを指し白髪といへば血の氣のなき老人を聯想す血といへば成る程赤い腦の色は灰白色に近し。

坪内逍遙の書ける文學その折々といふ本の中に英文の詩などを引用して人生の四季といふことを面白く説きたるものあり。恐らく人生のみならず人性の四大別たる多血質粘液質膽汁質心經質

Sanguine, Phlegmatic, Choleric, Melancholic.

も亦必ず之に相當する色彩あらん。赤が多血質ならば白は「メラノリック」にやあらん。

西洋で金髪といひ我國では緑の黒髪といふ人の眼に最も強く感ずる色は黄と緑との間にあるも可笑し。